

講師プロフィール

16名

(うち本講座卒業生7名)

5月8日(土)

「入門塾オリエンテーション」、「核酸医薬品研究開発の動向」



森 一郎

神戸大学科学技術イノベーション研究科 客員教授
株式会社ナティアス 研究開発部長

【概要】

1) 入門塾オリエンテーション

ライフサイエンス系における起業を目指すにあたり、どのような知識やマインドセットが必要なのでしょうか？今一度皆さんと確認しながら、当入門塾を最大限利用してただけるようにご説明します。

2) 核酸医薬品研究開発の動向

近年核酸医薬品開発の成功事例が多く報告され、身近にはコロナ治療薬としてRNAワクチンが実用化されています。ただ、核酸医薬品と言ってもその種類は多く、アンチセンス、siRNA, miRNA, mRNA等様々でそれらに関わるベンチャーが世界中に多く存在します。その概要および、化学合成による核酸医薬品（塩基長20前後）開発の現状と課題について解説します。

【略歴】

外資系製薬会社にて創薬化学研究者として約20年間創薬に従事。ファイザー社のスピンオフ創薬ベンチャーであるラクオリア製薬の立ち上げに参画後、神戸大学の産学連携部門で5年間ライフサイエンス系人材育成プログラムを担当。その後2016年から5年間、同大学に新設された科学技術イノベーションの教員として従事。2021年4月から核酸医薬系ベンチャーであるナティアス社に参画し研究開発を担当。

5月8日(土)

「人と組織を動かすプレゼンテーションの極意」



新名 史典

株式会社Smart Presen 代表取締役

【概要】

プレゼンテーションは単なる説明でも、カッコいいトークテクニックでもありません。優れた技術、優れたソリューションもそのすばらしさを理解していただき、協力してくださる方々に動いてもらうための総合的な取り組みです。そのための必須の要素、ストーリー構成、そして魅せ方をトータルで考え、実践いただけるようにノウハウをご提供させていただきます。

【略歴】

1997年 大阪府立大学大学院 農学研究科博士前期課程修了

1997年 サラヤ株式会社入社。技術営業とマーケティング、商品開発業務に従事

2011年 独立起業し、株式会社Smart Presen設立。

特に研究者、技術者のプレゼンテーション支援に積極的に携わる。モットーは「ビジネスは伝わってナンボ！」

圧倒的なプレゼン機会の経験をベースに、「人と組織」を動かすためのプレゼンテーション理論を確立。

年間300件の企業・団体・自治体研修での指導にあたるとともに、MOTスクールでの登壇、奈良先端科学技術大学院大学、大阪府立大学などの研究機関での登壇、文部科学省国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、公益財団法人大阪産業局などの各プロジェクトにてプレゼンテーション・ビジネスプランのブラッシュアップの指導にあたる。

「デザイン思考入門」



祇園 景子

神戸大学 V.school 准教授

【概要】

一言で「デザイン」といっても、服飾デザイン、建築デザイン、グラフィックデザインなど、様々な分野で使われている言葉です。本来、造形や図案、模様を考案することを意味しますが、広義では「必ずしも解が一つではない課題に対して、様々な角度から実現可能な解を見つけ出していくこと」と言えます。デザインコンサルタント会社IDEOは、デザイナーが0（ゼロ）から1を作り出す際のマインドセットと思考について、デザイナーでない人たちも実践できるように手法を提案しました。それがデザイン思考と呼ばれ、イノベーションを創り出すアプローチとして注目されています。日本でも多くの企業がアイデアを生み出すためにデザイン思考を取り入れて実践しています。

本講義では、デザイン思考を取り入れながら、思考の発散・収束をワークショップを通じて体験していただきます。多様な人たちと一緒に対話しながらアイデアを導き出す過程を楽しんでください。

【略歴】

2002年 神戸大学大学院自然科学研究科 修了

2008年 福山大学大学院工学研究科 博士（工学） 取得

サントリーホールディングス株式会社 R&D企画部 植物科学研究所 研究員、公益財団法人新産業創造研究機構 TLOひょうご 産学連携コーディネーター、神戸大学大学院医学研究科 特命助教、滋賀医科大学バイオメディカル・イノベーションセンター 特任助教、神戸大学大学院工学研究科 特命助教などを歴任し、2021年4月から神戸大学バリュースクール（V.School） 准教授。

6月12日(土)

「ベンチャースピリット」



安達 宏昭

株式会社創晶 代表取締役社長

【概要】

2005年に大阪大学発ベンチャーの「株式会社創晶」を起業して以来、これまでに7社のベンチャーを起業しました。事業分野はそれぞれ異なり、多岐に渡りますが、私なりに専門性を持ち、好奇心と情熱を維持して、走破してきました。いずれの経営にも、ベンチャースピリットを大切にしてきました。ベンチャースピリットは、日常生活や仕事の場面など、活用できることが多く、ベンチャー起業に限定されるものではありません。新しいことへの挑戦やいろいろと行動することで、より充実した人生を過ごすことができると思います。

【略歴】

2003年 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程, 電気工学専攻 修了、博士（工学）、同研究科 助手

2005年 株式会社創晶 代表取締役社長

2011年 社会福祉法人あおば福社会 理事

2013年 株式会社創晶應心 代表取締役社長

2014年 株式会社創晶大学 代表取締役社長

2016年 株式会社dotAqua 代表取締役社長、株式会社A・P・M 創業者、取締役上席執行役員、
株式会社創晶超光 代表取締役社長、大阪大学大学院工学研究科 招へい教授

2020年 株式会社HOIST 取締役、一般社団法人日本MA-T工業会 専務理事兼事務局長

2021年 大阪大学大学院薬学研究科 特任教授

7月10日(土)

「勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本」

～デジタル×バイオ時代の到来と神戸大学の挑戦～



山本 一彦

神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授

神戸大学大学院 経営学研究科(MBA) 教授(兼任)

神戸大学先端バイオ工学研究センター バイオエコノミー研究部門 部門長

株式会社科学技術アントレプレナーシップ (シード・アクセラレーター) 共同創業者・取締役

株式会社バイオパレット (ゲノム編集) 共同創業者・取締役

株式会社シンプロジェン (DNA合成) 共同創業者・取締役

株式会社バックス・バイオイノベーション (統合型バイオファウンドリー) 共同創業者・取締役

ViSpot株式会社(ウイルス安全性評価CRO) 共同創業者・取締役

【概要】

■合成生物学 (DNA合成、ゲノム編集等) とデジタルプラットフォーム (AI、Robotics、IoT等) の急速な発展と融合によって、微生物/植物/動植物細胞/藻類等の生物資源を使って、有用物質を安定的かつ大量に生産し、利用することができる、バイオエコノミー時代が到来した。

■勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本の現状及び課題を、海外の先端事例等を交えながら考察する。

■日本の現状と課題をふまえ、わが国のバイオエコノミーを牽引しうる「デジタル×バイオ」時代のベンチャー・エコシステムの構築を目指す神戸大学の取り組みを紹介する。

【略歴】

住友電気工業(株)、(株)野村総合研究所 (企業財務調査室) を経て、ベンチャー企業などで財務、経営戦略の責任者を経験。1998年に独立系ベンチャーキャピタルを創業し、代表取締役に就任。創業期専門のベンチャーキャピタリストとして、長年にわたりベンチャー企業の投資育成に取り組む。2016年1月に神戸大学発ベンチャーの創業支援等を目的に設立された(株)科学技術アントレプレナーシップの取締役に就任 (現任)。2016年4月に神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科の教授に就任 (現任)。

7月10日(土)

「神戸大発ベンチャー①バイオパレット」 ～ゲノム編集xマイクロバイオーム～



岩田 清和

株式会社バイオパレット 事業戦略部 マネージャー

【概要】

株式会社バイオパレットは、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科から生まれた新しいゲノム編集技術（塩基編集技術）の事業化を目指して設立されたバイオベンチャーである。ゲノム編集は2020年のノーベル化学賞の対象となるなど遺伝子工学の分野で既に世界に大きなインパクトを与えているが、疾患治療や農作物を中心として私たちにより身近な分野で実用化が進もうとしている。米国企業が圧倒的に先行している状況の中で、バイオパレットでは神戸大学と連携した高度な技術戦略と知財戦略に基づき、「ゲノム編集×マイクロバイオーム」を注力分野として、日本発の革新的な疾患治療の開発に取り組んでいる。私が製薬企業からバイオベンチャーへと転身した経緯等も織り交ぜながら、バイオパレットの活動状況を紹介する。

【略歴】

- 2006年 神戸大学大学院 自然科学研究科 応用化学専攻 修了 修士（工学）
- 2006年 大日本住友製薬株式会社に入社 役職：研究員（配属先：製剤研究所）
- 2010年 弁理士試験合格（未登録）
- 2015年 スタートアップ支援機関である合同会社SARRへ派遣 役職：Chief Researcher
- 2016年 大日本住友製薬株式会社へ帰任 役職：主任研究員
- 2017年 株式会社バイオパレットに入社 役職：事業開発マネージャー

「神戸大学発ベンチャー② シンプロジェン」 ～長鎖DNA合成x遺伝子治療～

齋藤 俊介

株式会社シンプロジェン 事業開発部 マネージャー

【概要】

神戸大学科学技術イノベーション研究科発のDNA合成ベンチャー企業であるシンプロジェンは、世界最多のDNA断片数を精確に集積できるOGAB法というDNA合成技術を有しています。バイオエコノミーの社会実装において不可欠となるDNA合成の技術領域において、OGAB法の商用化を目指し、2019年に世界初となる長鎖DNAの商用ラボ・ファクトリーを神戸に完成させ、DNAの受託合成サービスに着手しました。2020年からは、DNAの医療応用を目指し、遺伝子治療用ウイルスベクターに関する技術開発を進めています。本講義では、当社の事業領域であるDNA合成と遺伝子治療について、近年の動向と当社の取り組みについて紹介する。講義の後半では、私が製薬企業からバイオベンチャーに活動場所を移した経緯、経験、振り返り感じる事などについて紹介する。

【略歴】

- 2009年 早稲田大学大学院 先進理工学研究科 生命医科学専攻 修了 修士（工学）
- 2009年 大日本住友製薬株式会社に入社 役職：研究員（配属先：製剤研究所）
- 2016年 米国開発拠点のSunovion Pharmaceuticals Inc.に出向 役職：Manager
- 2018年 大日本住友製薬株式会社へ帰任 役職：主任研究員
- 2020年 株式会社シンプロジェンに入社 役職：事業開発マネージャー



8月14日(土)

「ライフサイエンス分野における産学連携によるイノベーション創出」



坂井 貴行

神戸大学 V.school 教授

【概要】

企業の開発ニーズと大学の技術シーズをマッチングして、産学連携による新製品開発を行うことは、地域経済の活性化の為に非常に重要になってきています。本講演では、これまでの産学連携、とくにライフサイエンス分野における連携事例をとおして、地域企業の新事業に繋がる産学連携の成功ノウハウについてお話しします。

【略歴】

1994年 三菱自動車工業株式会社

1999年 立命館大学 産官学連携推進室

2002年 関西TLO株式会社（現：株式会社TLO京都） 取締役

2012年 Cornell University, Center for Technology Enterprise and Commercialization, Visiting Scholar

2013月 徳島大学 産学官連携推進部 教授

2014年 徳島大学 四国産学官連携イノベーション共同推進機構 教授

2014年 株式会社テクノネットワーク四国 代表取締役専務取締役（兼務）

2015年 株式会社テクノネットワーク四国 代表取締役社長（兼務）

2016年 神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授

2020年 神戸大学 バリュースクール 教授

8月14日(土)

「英国式イノベーションと日本文化」



佐相 宏尚

株式会社ケンブリッジコンサルタンツ 代表取締役社長

【概要】

英国は世界トップクラスの大学を擁し、ノーベル賞受賞者も世界で2番目に多く輩出しています。人材に恵まれた環境の中、数多くの革新的なグローバルスタートアップが生まれてきているが、スティーブ・ジョブスのようなカリスマ経営者がほとんどいない。どのようにして、AIやIoTなど最先端分野で世界をリードするイノベーションが創造を続けているのか、日本でも同様の仕組みを作ることができるのかを実例を交えながら考察します。

【略歴】

立命館大学法学部卒業後、日系商社を経て外資系携帯電話メーカー等で事業開発・技術提携・エコシステム構築などを20年以上にわたり担当。スタートアップに参画した後、世界有数の技術コンサルティングファームであるCambridge Consultants Ltd日本法人を2015年2月に設立、ライフサイエンス分野含む様々な日本企業の変革支援に従事。

「製薬産業におけるオープンイノベーション」



有岡 伸悟

塩野義製薬株式会社 事業開発部 オープンイノベーション

【概要】

近年、製薬会社の力のみでは医薬品を世に送り出す事は難しくなっている。そこで、多くの製薬会社が、アカデミアやベンチャー企業で見出された新規アイデアや医薬品の種を見つけ出し、うまく開花させる取り組みに力を入れている。今回は、上記の取り組みを概観すると共に、弊社の事例をご紹介します。

また、私も皆さんと同じ本講座受講生でした（第4期～第6期）。本講座で学んだ事や、ここで得られたネットワークをどのように実業務に生かしているか、受講生に近い視点で共有できればと思います。

【略歴】

2004年 大阪大学大学院工学研究科博士前期課程

2004年 塩野義製薬株式会社入社

2004年 塩野義製薬株式会社にて創薬研究に従事（～2014年）

2010年 北海道大学生命科学院博士後期課程修了

2015年 オープンイノベーション業務に従事。現在、事業開発部にてアカデミアシーズの発掘や産産連携等を起点とした新事業創出や、産業基盤を作る為のコンソーシアム等に係る。

本講座を第4期から第6期まで受講し、ここで学んだ事を生かした施策を会社の実装してきた。また、本講座で得られたネットワークを生かしたオープンイノベーションの実践にも取り組んでいる。

「ライフサイエンスでの起業:Nexuspiral設立での経験」



増田 直之

Nexuspiral株式会社 代表取締役社長

【概要】

私は2019年に共同研究者とともに、Nexuspiral株式会社を立ち上げました。起業をするのは初めてであり、試行錯誤を繰り返しながらここまで進めてきました。特にライフサイエンス分野での起業は、参考になる例も少ないことからわからないことばかりでした。ライフサイエンス分野での起業・新規事業立ち上げなどにおいて少しでもお役に立つことがあるかもしれません。会社設立までの経緯と立ち上げた後の様々な経験について、お話しさせていただければと思います。

【略歴】

博士（工学）、経営学修士

1998年 アステラス製薬株式会社（創薬研究、神経科学Gにて精神疾患治療薬研究に従事）

2014年 米国 Agensys Inc.（米国ベンチャー企業にて抗体薬物複合体による新規抗がん剤創出研究に従事）、

2015年 アステラス製薬株式会社（新規技術の科学性評価を担当し、技術導入・外部連携の推進）

2016年 神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 特命准教授（大学発の科学技術の商業化、ベンチャー創出支援、アントレプレナーシップ教育の推進）

2019年より現職

「事業化を目指す研究者のための特許と契約」



浅野 滋啓

国立循環器病研究センター 産学連携本部長

【概要】

様々な大学や企業とのコラボレーションを多数推進してきた実体験を踏まえ、研究開発から事業化における知財戦略や契約交渉を中心に、企業の知財戦略が大学等のそれとどこが違うのか、企業はどんな点を重視しているか、企業とアカデミアの産学連携・企業間の共同研究開発を如何に上手く進めるか等、具体的事例も含めてお話しします。研究成果を事業につなげ成功させる上で、特許の観点で先ず考えるべき重要ポイント2つ、また、研究開発、事業開発、企画、営業その他、あらゆる部門の方々も、（法律の条文や契約書の文言など難しいことは分からなくても）、最低限ここだけは押さえておきたい特許や契約のエッセンスについて、皆様と一緒に考えたいと思います。

【略歴】

1987年 京都大学大学院・農学研究科農芸化学専攻 修士課程修了

1988年 武田薬品工業株式会社 生産技術研究所・バイオ技術センター・研究員

1994年 武田薬品工業株式会社 特許部・特許出願グループ・課長代理

2000年 武田薬品工業株式会社 知的財産部・知財情報グループ・主席部員

2002年 Takeda Europe R&D Center (ロンドン駐在、3年)

2005年 武田薬品工業株式会社 知的財産部・シニアマネージャー

2015年 武田薬品工業株式会社 Strategy & Operations, IP & Alliance Director

2017年 九州大学・ARO次世代医療センター 特任准教授

2019年 藤田医科大学 産学連携推進センター 教授

2020年より 現職 (他に 日本ライセンス協会 (LES Japan) 理事、研修委員会副委員長；九州大学・先端医療オープンイノベーションセンター 外部アドバイザー、株式会社ジェクスヴァル シニア・アドバイザー など兼任)

「SDGsの世界感を体験するSDGsワークショップ」

今田 大介

一般社団法人インバウンド・ダイバーシティ協会 代表理事

【概要】

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で2015年9月に国連加盟国193カ国全会一致で採択されました。2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標です。最近メディア等でも取り上げられている「SDGs」。17のゴール、169のターゲットなど聞かれたことのある方もいらっしゃると思います。今回は、座学でSDGsを学ぶのではなくワークショップ形式で、カードゲームでSDGsの世界感をシミュレーション体験し、SDGsをライフサイエンス分野にてどのように取り入れることができるかご一緒に考えましょう。

(※コロナ等で対面でのカードゲームができない場合は、オンラインによるSDGsの講義になります)

【略歴】

尼崎市SDGs推進アドバイザー ・ 神奈川SDGs社会的インパクトマネジャー

SDGsゲームファシリテーター (「2030SDGs」「SDGs de 地方創生」「SDGsアウトサイドイン」)

自治体や企業等のアドバイザーや社会的インパクト評価/マネジメント手法による民間企業のSDGs事業開発支援業務等を行いながら教育現場（小学校から大学院まで）においてSDGsについての授業・講義を実施するなど、SDGsの普及啓発・アクションに取り組んでいる。

※本講座の第6期、第7期の修了者



「医療機器開発の現状と課題」

保多 隆裕

神戸大学 未来医工学研究開発センター

/医学部附属病院 臨床研究推進センター 特命助教授

【概要】

わが国の医療機器市場規模はおよそ3兆円で、年々拡大しているものの、欧米や新興国に比べてその成長率は低く、中国などに市場規模で追い抜かれる日もそう遠くない。加えて国内市場のおよそ半分は欧米製品で、特に治療系機器の輸入依存度は際立っている。講義では医療機器の開発のプロセスおよび日本の医療機器産業の現状と課題について解説する。

【略歴】

内資・外資の製薬会社で10年余り創薬研究に励んだ後に退職。海外の大学院で博士号を取得し、上席研究員としてとどまる。帰国後は神戸大学医学部附属病院で医薬品、医療機器、健康食品のトランスレーショナルリサーチを実施。



11月13日

「未病克服のために健康関数®を社会に届ける」

水野 敬

理化学研究所 生命機能科学研究センター
健康・病態科学研究チーム 上級研究員

【概要】

科学技術振興機構（JST）の事業である「健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラム」で開発した総合的健康度の新しい可視化手法である「健康関数®」は、疾患発症の前段階である未病の新たな検出方法として注目されています。健康関数®の強みはメンタルヘルスとフィジカルヘルスの両軸を捉えた総合的健康度の評価に資することです。COVID-19対策としての新しい生活様式、健康経営や働き方改革といった社会ニーズに合わせて柔軟に健康度を可視化するこの取り組みは、今後の事業展開も含め多くの企業の皆様から関心を寄せて頂いています。計測会場での健康計測に留まらずIT技術も活用し、自宅でも計測可能な評価系の構築も進めています。さらに、総合的健康度の可視化だけでなく、健康是正・増進に資する食薬環境空間ソリューションの評価検証も含めた健康関数®事業の本格展開を目指しています。これらの活動を通して、将来にわたり健康で“生き活き”とした人生を送っていく上での「羅針盤」の提供を実現していきます。

【略歴】

2007年大阪市立大学大学院博士課程修了、博士（医学）。日本学術振興会・特別研究員、科学技術振興機構・研究員、理化学研究所分子イメージング科学研究センター・研究員、理化学研究所健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラム・チームリーダー等を経て2018年より現職。大阪市立大学健康科学イノベーションセンター・センター副所長／特任准教授も兼任。著書は2008年「Fatigue Science for Human Health」、2016年「おいしく食べて疲れをとる」、2018年「疲労と回復の科学」など。専門分野は疲労科学、脳神経科学。



12月11日(土)

「リーダーシップの本質と実践」



能見 貴人

FORESIGHT & LINX株式会社 代表取締役社長

【概要】

今日、あらゆる局面でリーダーシップの重要性が唱えられているが、一方でリーダーシップの本質とは何かという問いに明確に答えられる人は少ない。多くの場合リーダーシップとマネジメントが混同され、組織でのリーダーシップ開発が間違った方向に進められているケースも少なくない。本講では、リーダーシップに関する様々な疑問に答えつつ、リーダーシップの本質を定義し、リーダーとして心に留めておくべき重要な点を解説する。

【略歴】

1986年 東京大学大学院薬学研究科 博士課程修了 薬学博士

1986年 大阪大学産業科学研究所 助手

1989年 Roche分子生物学研究所 ポスドク

1990年 岡山大学工学部生物応用工学科 助教授

1996年 ノバルティス 移植研究領域 マネジャー

1999年 GSK筑波研究所 所長 (2002~2007)、生物科学研究部 部長

2007年 リーダーシップ開発 コンサルタント & 幼児の創造性開発のための教室 主宰
製薬研究開発&事業開発 コンサルタント

2014年 Director, External Science & Partnering, Sanofi Global R&D

2017年 FORESIGHT & LINX 株式会社 代表取締役社長